

授業科目 公衆栄養学Ⅰ

【担当教員名】 入山 八江		対象学年	2	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	態度
◎		○			
【概要・一般目標：GI0】 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅰでは、日本を中心に、（１）公衆栄養学の概念と枠組みと計画・実施・評価の進め方、（２）社会における栄養問題の実態把握、（３）公衆栄養活動の基盤としての組織、制度、法規、（４）主要な栄養政策や栄養プログラムについて理解する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 １．公衆栄養学の概念について説明する。 ２．日本の健康・栄養問題の現状と課題についてデータから読み取る。 ３．日本の栄養政策について（特に法・制度基盤、主要計画、食事摂取基準、国民健康・栄養調査など）概要を説明する。 ４．地域栄養プログラムのイメージをもつ。 ５．諸外国の健康・栄養課題と対策、政策について概要を説明する。					
回数	授業計画・学習の主題				SB0 番号
1	公衆栄養学の概念				1
2	日本の健康・栄養問題の現状と課題 1 社会環境、健康状態、食事、食生活、食環境の変化				2
3	日本の健康・栄養問題の現状と課題 2 国民健康栄養調査からみた健康状態、食事、食生活の現状				2
4	日本の栄養政策 1 公衆栄養活動の歴史、管理栄養士・栄養士制度				3
5	日本の栄養政策 2 公衆栄養関連法規（地域保健法、健康増進法、食育基本法等）				3
6	日本の栄養政策 3 健康増進基本計画				3
7	日本の栄養政策 4 国民健康・栄養調査				3
8	日本の栄養政策 5 指針、ツール（食生活指針、食事バランスガイド）				3
9	日本の栄養政策 6 食事摂取基準（基本）				3
10	日本の栄養政策 7 食事摂取基準（集団への活用）				3
11	自治体の公衆栄養活動：県・保健所、市町村				4
12	地域での公衆栄養活動：産業保健				4
13	諸外国の栄養課題と対策 1 先進国				5
14	諸外国の栄養課題と対策 2 開発途上国				5
15	まとめ				
【使用図書】		＜書名＞		＜著者名＞	＜発行所＞
教科書 （必ず購入する書籍）		公衆栄養学		田中平三他	南江堂
		国民健康・栄養の現状 最新版		健康・栄養情報研究会	第一出版
		日本人の食事摂取基準 2015 年版		厚生労働省	第一出版
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 出席、筆記試験			【履修上の留意点】		